

第1章 現況

1-1 社会情勢と関連計画等の整理

(1) 社会情勢

1) 人口減少と少子高齢化の進行

国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、平成22（2010）年の1億2,718万人の人口は、平成32（2020）年1億2,274万人、そして、平成62（2050）年には1億人台を下回る9,515万人まで減少するとされています。

また、少子化傾向が続く一方、高齢化も進行し、やがて3人に1人が65歳以上という極端な少子高齢社会を迎え、社会保障関係に限らず、経済の低迷やコミュニティの弱体化に伴う地域社会全体の活力の減退など、幅広い分野に影響を及ぼすことが懸念されます。

2) 過疎化の進行と地域活力の低下

全国的に人口減少と少子高齢化が急速に進行する中、中山間地域や農村集落は更に深刻な状況にあります。若者流出・超高齢化、農林地の荒廃、コミュニティの衰退など、過疎化や地域活力の低下に歯止めがかからず、廃村の危機が懸念されている所もあります。

一方、田舎暮らしやスローライフなどのへの志向の高まりを受けて、都市から農村への移住や交流定住といった形の動きも見られます。

3) 経済・雇用環境の変化

人口減少社会を迎え、経済の高度成長や拡大が期待できない中、グローバル化や産業構造の転換に加え、世界経済危機を背景とした景気の低迷など、地域経済や雇用を取り巻く環境は厳しい状況が続いています。

一方、終身雇用制度や年功序列の賃金体系が崩れ、パートや派遣社員、フリーターが増加するなど雇用・就労環境が大きく変化しています。

さらに、人口減少による地域経済活動の縮小への打開策の一つとして、交流人口の拡大や特徴ある産業振興への取組が進むに伴い、都市間競争による地域間格差が顕在化する状況が見られます。

4) 情報化の進展

インターネットなどの情報通信技術の飛躍的な進歩とパソコンや携帯電話などの情報通信機器の急速な普及により、事業活動や働き方、消費行動や日常生活など、ライフスタイルや社会経済システム全体が大きく変化しています。

地域の情報化は、市民生活、事業活動、教育など様々な分野における課題解決に新たな可能性を持っています。また、都市と地方の時間的距離を短縮し、過疎集落などでの定住人口の増加にもつながる有効な解決策となり得るものと期待されています。

5) 環境問題の顕在化

生態系の変化、記録的猛暑、頻発する集中豪雨などの異常気象など、世界各地で起こっている地球温暖化が原因と思われる環境問題のほか、身近で起こる生活環境の悪化や廃棄物問題がクローズアップされています。

地球市民の一員として大量生産・大量消費・大量廃棄型の経済行動から脱却し、二酸化炭素に代表される温室効果ガスの削減やごみ減量化などの積極的な取組が求められています。

また、持続的な社会の実現には、自然エネルギーの活用や地産地消を基本とする食料自給率の向上などが課題となってきています。

(2) 上位・関連計画

1) 第5次綾部市総合計画（平成23年3月）

区 分	概 要	
①将来都市像	『住んでよかった・・・ゆったりやすらぎの 田園都市・綾部』	
②都市像実現のための基本的な視点	(1) 存在感のあるまちづくり	「綾部らしさ」「綾部のよさ」が感じられる独自の施策の展開とブランドを築きながら、存在感のあるまちづくりに努め、「住んでよかった」「住み続けたい」「住んでみたい」というまちの実現を目指します。
	(2) 自主・自立のまちづくり	まちづくりや行政サービスのあり方・進め方について創意工夫を重ね、市民本位の施策を地域の実情に応じて展開します。また、「現地・現場を大切に作る」「問題解決・政策形成能力を高める」などの職員の基本姿勢を徹底し、市民との信頼関係を形成しながら自主・自立のまちづくりを推進します。
	(3) 計画的・効果的な行政運営	行政評価による業務の見直しや効率化などの行政改革に取り組みながら、持続可能な健全財政の維持に努めるとともに、事業の必要性や優先度の検証、選択と重点化等による計画的・効果的な行政運営を図ります。
③基本的な枠組		
○人 口	推計値：平成32年 \longrightarrow 33,000人程度	
○土地利用の基本方向	(1) 市街地地域	市街化が進展し機能的な都市環境が形成されるべき地域で、住居機能や商工業等の業務機能、公共機能などが集中して誘導、整備され、文化、経済等の中心となる地域。
	(2) 里山・田園地域	田園都市を構成する重要な地域として、里山や田園、水辺、緑地など、農林業を通じそこに暮らす人々とのかかわりが深い自然を有する地域。
	(3) 自然環境地域	美しく清らかな自然環境に恵まれた森林、原野、河川等の区域で貴重な自然が残り、その保全が最優先されるべき地域。

区 分	概 要	
④実現のための 5つの課題	(1)少子高齢化への対応	<ul style="list-style-type: none"> ●子育て世代の若者が定着できる条件整備 ●子育てと仕事のバランスが保ちやすい環境づくりやニーズにあった子育て支援策の推進 ●保健・医療・福祉サービス等の確保 ●高齢者が様々な場面で活躍していくことができる環境づくり
	(2)産業振興による雇用確保	<ul style="list-style-type: none"> ●新製品開発や技術開発、人材育成、経営の安定化などに対する支援 ●企業誘致の促進 ●特産品・ブランド商品の開発、地産地消や六次産業化、農商工連携、商店街の活性化などの支援による商工業・農林業等の振興 ●広域観光の取組、農村都市交流、グリーンツーリズムの取組等による観光の振興 ●福祉・介護など、多様な分野における雇用の確保 ●市内産業の振興に寄与できる人材の育成 ●就労支援の推進
	(3)次代を担う人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> ●家庭、地域、学校、行政等の連携による教育や支援など次代を担う人材の育成環境づくり ●若者の社会的自立を地域社会全体で支え、まちの活性化に結び付けていく環境づくり
	(4)農村集落の活性化と街なかの再生	<ul style="list-style-type: none"> ●地域資源を活用した仕事づくりや生きがいづくり、農村都市交流や定住等の取組の推進 ●商業関係者の主体的なにぎわいづくりや個性豊かな空間づくり等の取組の支援 ●市街地の活性化や居住環境の整備等による街なかへの居住促進
	(5)市民生活における安全・安心の確保	<ul style="list-style-type: none"> ●消防・防災体制や防犯・消費生活相談体制、交通安全対策などの充実 ●廃棄物の適正処理と排出抑制の取組の推進 ●市民自らが生活のあり方を見直す取組や環境保全、温室効果ガスの削減に向けた活動等の推進 ●綾部市立病院を核とした地域医療体制の充実と地域福祉の向上

区 分	概 要	
⑤実現に向けた 6つの施策大 綱	(1)市民が輝き共 に築くまちづ くり	①人権尊重社会の実現 ②市民活動の促進 ③男女共同参画社会の実現 ④平和の発信と交流
	(2)心豊かな人と 文化を育むま ちづくり	①幼児教育の充実 ②学校教育の充実 ③社会教育の充実 ④青少年健全育成の推進 ⑤文化・芸術の振興 ⑥スポーツの振興
	(3)支えあい安心 して暮らせる まちづくり	①子育て環境の充実 ②高齢者福祉の推進 ③障害者福祉の推進 ④地域福祉社会の実現 ⑤保健の推進 ⑥医療体制の充実 ⑦社会保障の適正運営
	(4)豊かさにとぎ わいを生み出 すまちづくり	①農林業・内水面漁業の振興 ②農村の活性化 ③商業の振興 ④工業の振興 ⑤観光交流の推進 ⑥地元雇用の確保
	(5)自然豊かで安 全なまちづく り	①環境の保全と創造 ②廃棄物対策の推進 ③上水道の安定供給 ④下水道の整備促進 ⑤防災対策の推進 ⑥消防・救急体制の充実 ⑦生活の安全性の向上
	(6)快適で誰もが 住みよいまち づくり	①土地利用と市街地の形成 ②住環境の整備 ③道路の整備 ④公共交通の充実 ⑤公園・緑地空間の充実 ⑥斎場・墓地の適正管理 ⑦地域情報化の推進

(1) 人口動向

1) 人口・世帯数

①人口・世帯数の概況

≪人口は平成22年で約3万6千人となり、昭和25年以降減少が続いています。

世帯数は約1万4千世帯で、平成22年は減少しました。≫

人口は平成22年に35,836人となり、昭和25年の54,055人をピークに減少が続いています。

世帯数は、平成17年まで増加していましたが、平成22年は14,006世帯となり、減少しました。

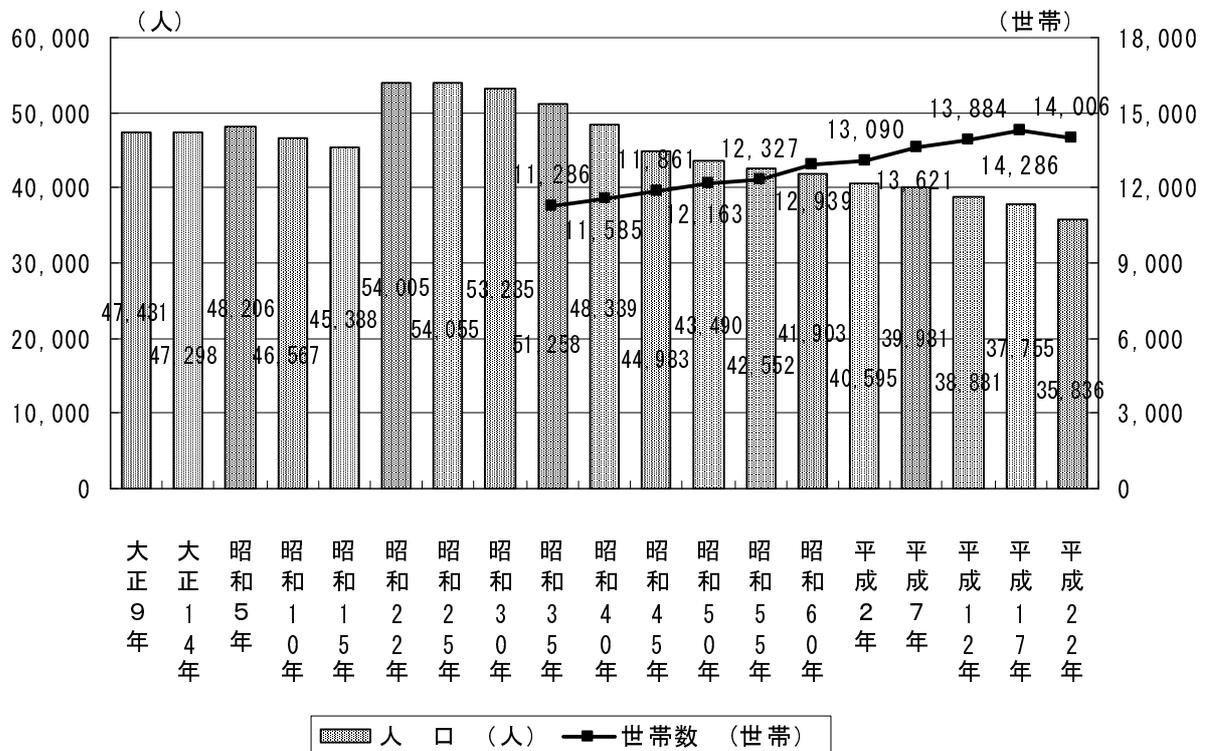


図1-1 本市の人口、世帯数の推移
(資料：国勢調査、昭和30年以前は総務庁推計値)

②人口・世帯数の隣接市町との比較

《人口規模は、福知山市、舞鶴市のおおむね1/2程度で、宮津市の約1.8倍です。》

隣接する福知山市は約8万人、舞鶴市は約8万9千人で、本市の人口規模はこの2市のおおむね1/2で、宮津市の約1.8倍の人口規模です。

《人口推移は昭和60年～平成22年において、福知山市、舞鶴市に比べて減少率が4～10%高くなっています。》

福知山市等の近隣市町でも人口は減少しています。人口減少率は昭和60年を100%とすると平成22年は85.5%に減少し、福知山市の95.9%、舞鶴市の89.8%に比べて、本市の人口減少率は4～10%高くなっています。一方、宮津市、京丹波町は本市より高い人口減少率となっています。なお、京都府の人口は、平成17年以降減少に転じています。

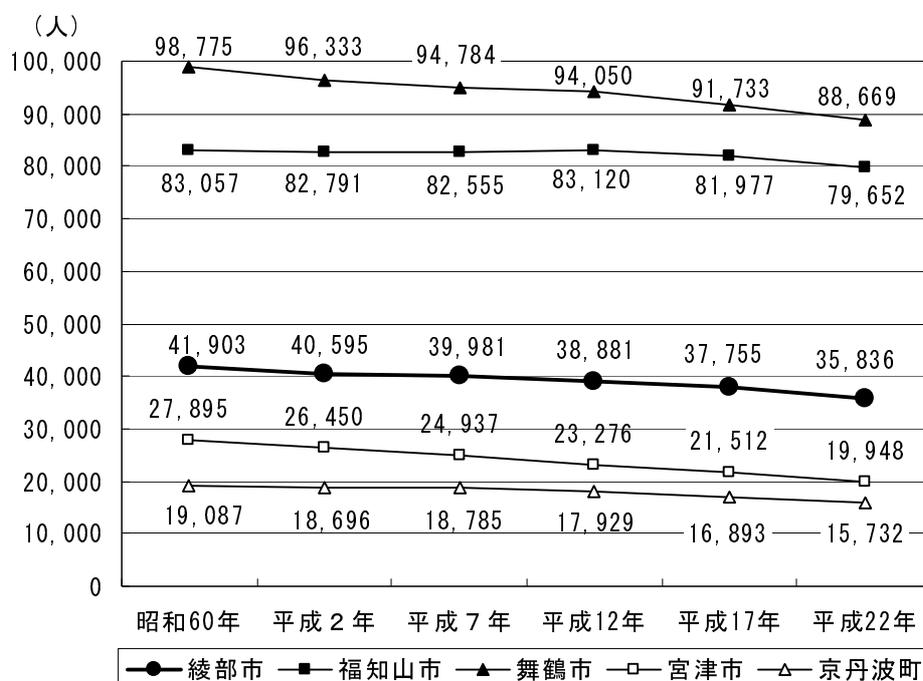


図1-2 本市と周辺都市の人口推移 (資料: 国勢調査)

表1-1 本市と周辺都市の人口推移

区分		昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年
綾部市	人口(人)	41,903	40,595	39,981	38,881	37,755	35,836
	指数(%)	100.0	96.9	95.4	92.8	90.1	85.5
福知山市	人口(人)	83,057	82,791	82,555	83,120	81,977	79,652
	指数(%)	100.0	99.7	99.4	100.1	98.7	95.9
舞鶴市	人口(人)	98,775	96,333	94,784	94,050	91,733	88,669
	指数(%)	100.0	97.5	96.0	95.2	92.9	89.8
宮津市	人口(人)	27,895	26,450	24,937	23,276	21,512	19,948
	指数(%)	100.0	94.8	89.4	83.4	77.1	71.5
京丹波町	人口(人)	19,087	18,696	18,785	17,929	16,893	15,732
	指数(%)	100.0	98.0	98.4	93.9	88.5	82.4
京都府	人口(人)	2,586,574	2,602,460	2,629,592	2,644,391	2,647,660	2,636,092
	指数(%)	100.0	100.6	101.7	102.2	102.4	101.9

資料: 国勢調査

《世帯数は減少しましたが、隣接する2市では増加しています。》

世帯数は福知山市、舞鶴市のおおむね1/2です。

世帯数は、平成17年までは増加していましたが、平成22年は減少しました。近隣の福知山市、舞鶴市では増加が続いていますが、宮津市、京丹波町は減少しています。また、京都府全体では増加が続いています。

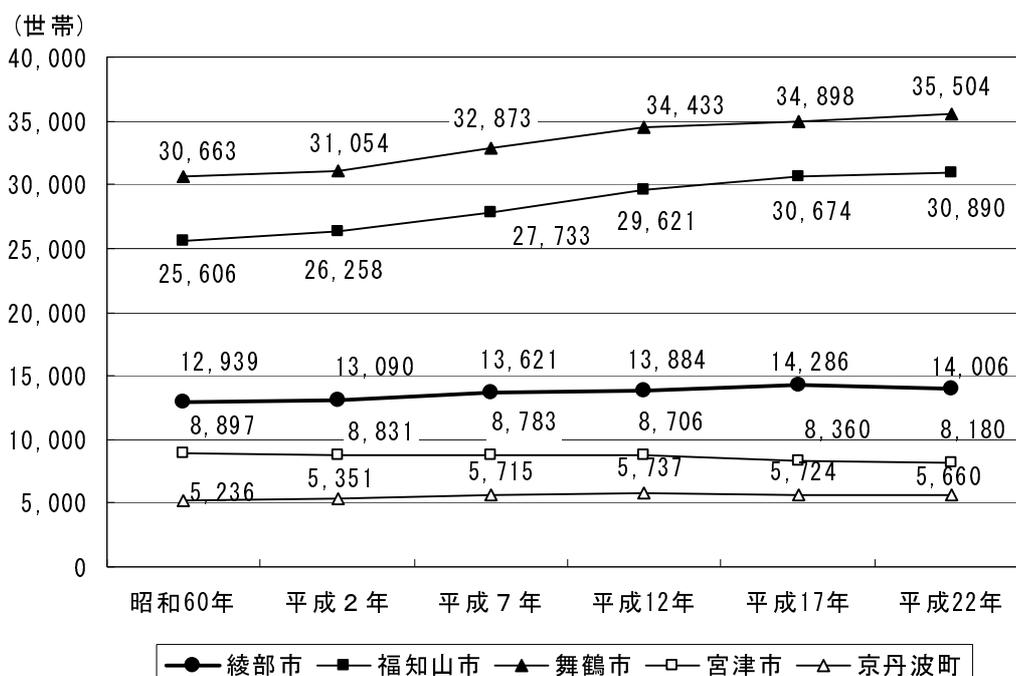


図1-3 本市と周辺都市の世帯数推移 (資料: 国勢調査)

表1-2 本市と周辺都市の世帯数推移

市町村名	区分	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年
綾部市	世帯数(世帯)	12,939	13,090	13,621	13,884	14,286	14,006
	指数(%)	100.0	101.2	105.3	107.3	110.4	108.2
福知山市	世帯数(世帯)	25,606	26,258	27,733	29,621	30,674	30,890
	指数(%)	100.0	102.5	108.3	115.7	119.8	120.6
舞鶴市	世帯数(世帯)	30,663	31,054	32,873	34,433	34,898	35,504
	指数(%)	100.0	101.3	107.2	112.3	113.8	115.8
宮津市	世帯数(世帯)	8,897	8,831	8,783	8,706	8,360	8,180
	指数(%)	100.0	99.3	98.7	97.9	94.0	91.9
京丹波町	世帯数(世帯)	5,236	5,351	5,715	5,737	5,724	5,660
	指数(%)	100.0	102.2	109.1	109.6	109.3	108.1
京都府	世帯数(世帯)	860,309	902,420	966,598	1,026,724	1,079,041	1,122,057
	指数(%)	100.0	104.9	112.4	119.3	125.4	130.4

資料: 国勢調査

③区域区分別人口

≪市街化区域の人口は本市の約49%、市街化調整区域の人口は約43%、都市計画区域外の人口は約8%で、いずれも減少しています。≫

平成22年の人口は、市街化区域が17,530人(48.9%)、市街化調整区域が15,583人(43.5%)、都市計画区域外が2,723人(7.6%)です。

人口推移は、市街化区域では平成17年まで増加していましたが、平成22年には減少し、市街化調整区域と都市計画区域外では減少が続いています。昭和60年人口を1.00とすると、平成22年人口は市街化区域が1.02、市街化調整区域が0.76、都市計画区域外が0.65となります。

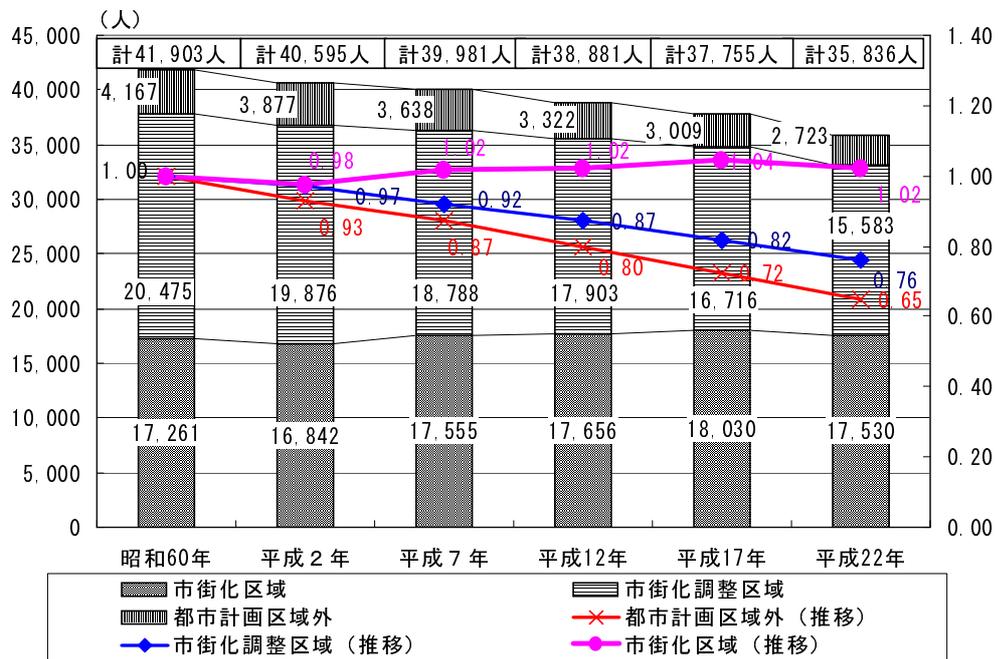


図1-4 本市の区域区分別人口の推移 (資料：国勢調査)

表1-3 本市の区域区分別の人口推移

区分	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	(構成比)
	人口	41,903	40,595	39,981	38,881	37,755	35,836
都市計画区域	37,736	36,718	36,343	35,559	34,746	33,113	92.4%
市街化区域	17,261	16,842	17,555	17,656	18,030	17,530	48.9%
うちDIDD区域	12,228	11,299	11,299	12,999	13,135		
市街化調整区域	20,475	19,876	18,788	17,903	16,716	15,583	43.5%
うちDIDD区域	-	-	-	304	304		
都市計画区域外	4,167	3,877	3,638	3,322	3,009	2,723	7.6%
人口推移	1.00	0.97	0.95	0.93	0.90	0.86	
都市計画区域	1.00	0.97	0.96	0.94	0.92	0.88	
市街化区域	1.00	0.98	1.02	1.02	1.04	1.02	
うちDIDD区域	1.00	0.92	0.92	1.06	1.07	0.00	
市街化調整区域	1.00	0.97	0.92	0.87	0.82	0.76	
うちDIDD区域	-	-	-	1.00	1.00	0.00	
都市計画区域外	1.00	0.93	0.87	0.80	0.72	0.65	

資料：国勢調査

注) 1. 平成2年以前の世帯数は都市計画区域区分の人口による案分。
平成7年以降については、国勢調査世帯数による集計

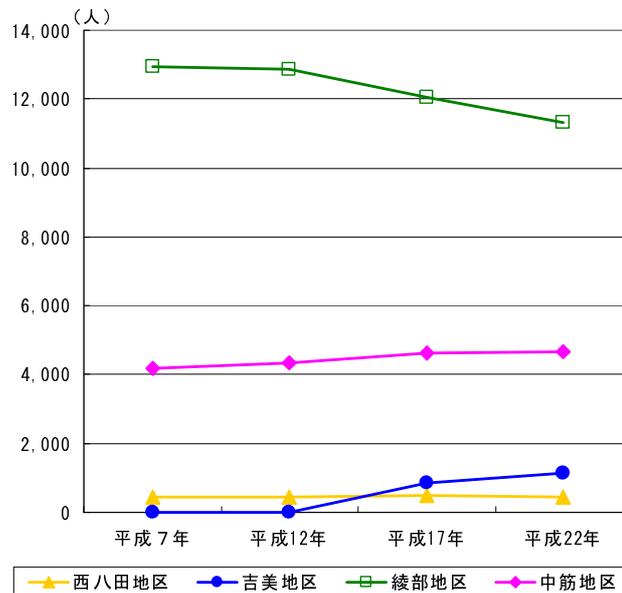
2. 平成7年以前の市街化調整区域内のDIDD区域は市街化区域として計上

④地区別人口（都市計画区域内）

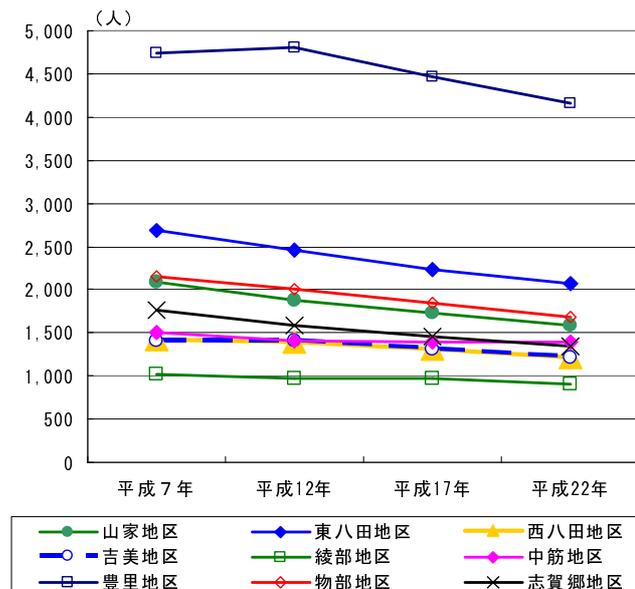
≪市街化区域の、綾部地区は減少、中筋、西八田地区は横ばい又は微減、吉美地区は増加しています。市街化調整区域はいずれの地区も減少しています。≫

市街化区域は綾部地区が約1万1千人で都市計画区域内人口の34.1%を占め、人口推移は減少傾向にあります。また、中筋地区は約4千7百人（14.1%）、西八田地区と共に横ばい又は微減し、吉美地区は増加しています。

市街化調整区域は、豊里地区が約4千2百人（12.6%）、東八田地区が約2千1百人（6.3%）、その他の地区は約1～2千人（おおむね3～5%）で、人口推移はいずれも減少しています。



【その1：
市街化区域の
地区別人口】



【その2：
市街化調整区域の
地区別人口】

図1-5 都市計画区域内地区別人口の推移
(資料：平成7年～17年都市計画基礎調査、平成22年国勢調査)

表 1 - 4 都市計画区域内地区別人口の推移

区 分	平成 7 年	平成12年	平成17年	平成22年		平成 7 年 から平成 22年まで の人口推 移	
	人口(人)	人口(人)	人口(人)	人口(人)	構成比(%)		
市 街 化 区 域	西八田地区	434	432	500	454	1.4	1.05
	吉美地区	0	17	841	1,143	3.5	—
	綾部地区	12,957	12,875	12,061	11,302	34.1	0.87
	中筋地区	4,164	4,332	4,628	4,657	14.1	1.12
	計	17,555	17,656	18,030	17,556	53.0	1.00
市 街 化 調 整 区 域	山家地区	2,087	1,878	1,736	1,581	4.8	0.76
	東八田地区	2,692	2,458	2,237	2,072	6.3	0.77
	西八田地区	1,423	1,385	1,311	1,209	3.7	0.85
	吉美地区	1,414	1,402	1,304	1,215	3.7	0.86
	綾部地区	1,020	966	970	901	2.7	0.88
	中筋地区	1,508	1,414	1,390	1,388	4.2	0.92
	豊里地区	4,738	4,803	4,466	4,162	12.6	0.88
	物部地区	2,148	2,008	1,847	1,688	5.1	0.79
	志賀郷地区	1,758	1,589	1,455	1,341	4.0	0.76
計	18,788	17,903	16,716	15,557	47.0	0.83	
都市計画区域 合計	36,343	35,559	34,746	33,113	100.0	0.91	

資料：平成 7 年～17 年都市計画基礎調査、平成22 年国勢調査

⑤人口の自然・社会動態

「少子化による自然動態の減少数の増加、転入の減による社会動態の減少数の増加により、自然動態、社会動態ともに減少数が大きくなってきています。」

自然動態では、出生が減少する一方で死亡が微増する傾向にあり、自然動態の減少数は大きくなってきています。

社会動態では、平成 10～17 年度では転入と転出が均衡していましたが、平成 18 年度以降は転入が減少する一方で転出は横ばい、または微減する傾向にあり、転出が転入を上回る状態になり、社会動態の減少数が大きくなってきています。

表 1 - 5 本市人口の自然・社会動態

年 度	平成7 年度	平成8 年度	平成9 年度	平成10 年度	平成11 年度	平成12 年度	平成13 年度	平成14 年度	平成15 年度	平成16 年度	平成17 年度	平成18 年度	平成19 年度	平成20 年度	平成21 年度	平成22 年度	平成23 年度	平成24 年度
出 生	341	350	330	332	299	307	315	270	281	249	276	272	259	258	246	254	215	246
死 亡	461	491	443	453	474	451	464	453	457	495	492	483	512	483	499	549	550	562
自然動態	-120	-141	-113	-121	-175	-144	-149	-183	-176	-246	-216	-211	-253	-225	-253	-295	-335	-316
転 入	1,199	1,258	1,326	1,301	1,351	1,290	1,124	1,138	1,114	1,034	1,054	1,056	1,016	1,069	987	900	842	844
転 出	1,357	1,344	1,402	1,303	1,351	1,257	1,165	1,168	1,060	1,116	1,044	1,160	1,183	1,208	1,146	1,003	1,067	959
社会動態	-158	-86	-76	-2	0	33	-41	-30	54	-82	10	-104	-167	-139	-159	-103	-225	-115
人口増減	-278	-227	-189	-123	-175	-111	-190	-213	-122	-328	-206	-315	-420	-364	-412	-398	-560	-431
累 計		-505	-694	-817	-992	-1,103	-1,293	-1,506	-1,628	-1,956	-2,162	-2,477	-2,897	-3,261	-3,673	-4,071	-4,631	-5,062

資料：市民・国保課

2) 年齢階層別人口

「高齢者人口は増加し、年少人口と生産年齢人口は減少、京都府と比較すると高齢者人口の構成比は約10%高くなっています。」

平成22年の年齢3区分別人口は、15歳未満の年少人口が約4千人（12.5%）、15歳～64歳の生産年齢人口が約1万9千人（54.1%）、65歳以上の高齢者人口が約1万2千人（33.2%）です。

この昭和60年以降の推移では、高齢者人口は増加し、年少人口と生産年齢人口は減少しています。

また、京都府と比較すると、年少人口の率はほぼ同じですが、高齢者人口は約10%高く、生産年齢人口は約9%低くなっています。

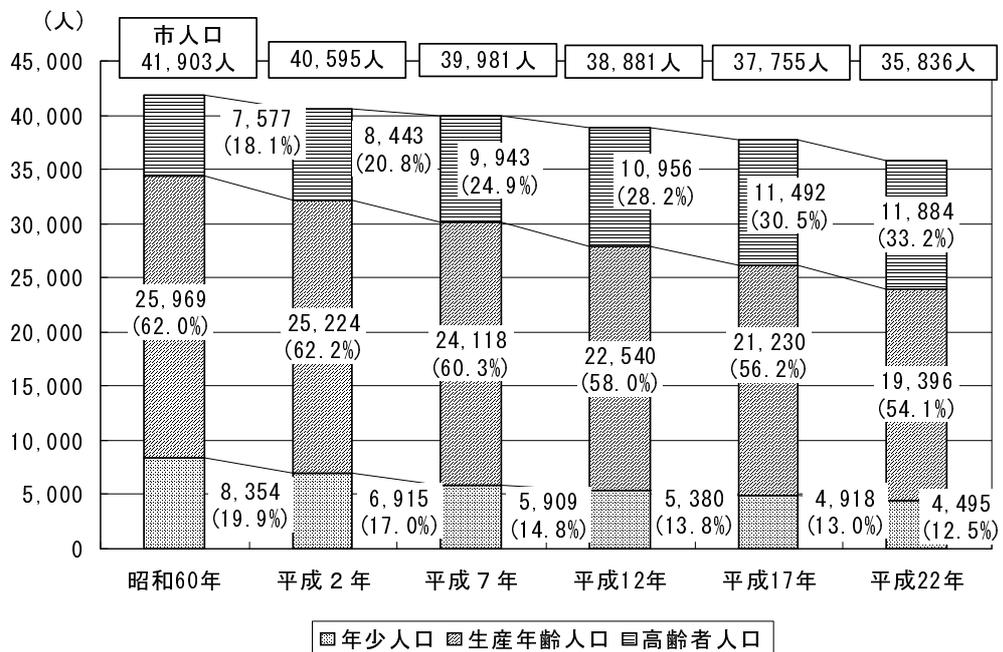


図1-6 年齢3区分別人口の推移

(資料：国勢調査、注：市人口には年齢不詳者数を含む)

表1-6 年齢3区分別人口の推移

区分		計	年少人口	生産年齢人口	高齢者人口	年齢不詳	
綾部市	昭和60年	人口 (人)	41,903	8,354	25,969	7,577	3
		構成比 (%)	100.0	19.9	62.0	18.1	0.0
	平成2年	人口 (人)	40,595	6,915	25,224	8,443	13
		構成比 (%)	100.0	17.0	62.2	20.8	0.0
	平成7年	人口 (人)	39,981	5,909	24,118	9,943	11
		構成比 (%)	100.0	14.8	60.3	24.9	0.0
	平成12年	人口 (人)	38,881	5,380	22,540	10,956	5
		構成比 (%)	100.0	13.8	58.0	28.2	0.0
	平成17年	人口 (人)	37,755	4,918	21,230	11,492	115
		構成比 (%)	100.0	13.0	56.2	30.5	0.3
	平成22年	人口 (人)	35,836	4,495	19,396	11,884	61
		構成比 (%)	100.0	12.5	54.1	33.2	0.2
(京都府) 平成22年		人口 (人)	2,636,092	334,444	1,653,812	605,709	42,127
		構成比 (%)	100.0	12.7	62.7	23.0	1.6

資料：国勢調査

3) 就業者の推移と流動状況

「就業者は、市内常住者の約74%が市内で就業、約26%が市外に就業し、また、福知山市、舞鶴市など市外からの就業が約27%あります。」

平成22年の就業者は、本市に常住する就業者数が16,750人、本市で従業する就業者数が17,456人です。

本市に常住する就業者数の内、市外を従業地とする流出者数は4,333人(25.9%)で、福知山市(2,998人)、舞鶴市(856人)が主な従業地となっています。一方、市外に常住し本市を従業地とする流入者数は4,766人(27.3%)で、福知山市(2,595人)、舞鶴市(1,373人)からの就業が多くなっています。

「就業者は、流入者は横ばい傾向、流出者は増加傾向にありますが、流入者が流出者を上回っています。」

就業者数の推移をみると、本市に常住する就業者数、本市で従業する就業者数は共に減少し、本市に常住する就業者数のうち市外を従業地としている者(流出者)が増加し、本市に従業する就業者で居住地を市外としている者(流入者)が横ばい傾向にあります。

また、平成7年までは、流出者が流入者を上回っていましたが、平成12年からは、流入者が流出者を上回っています。

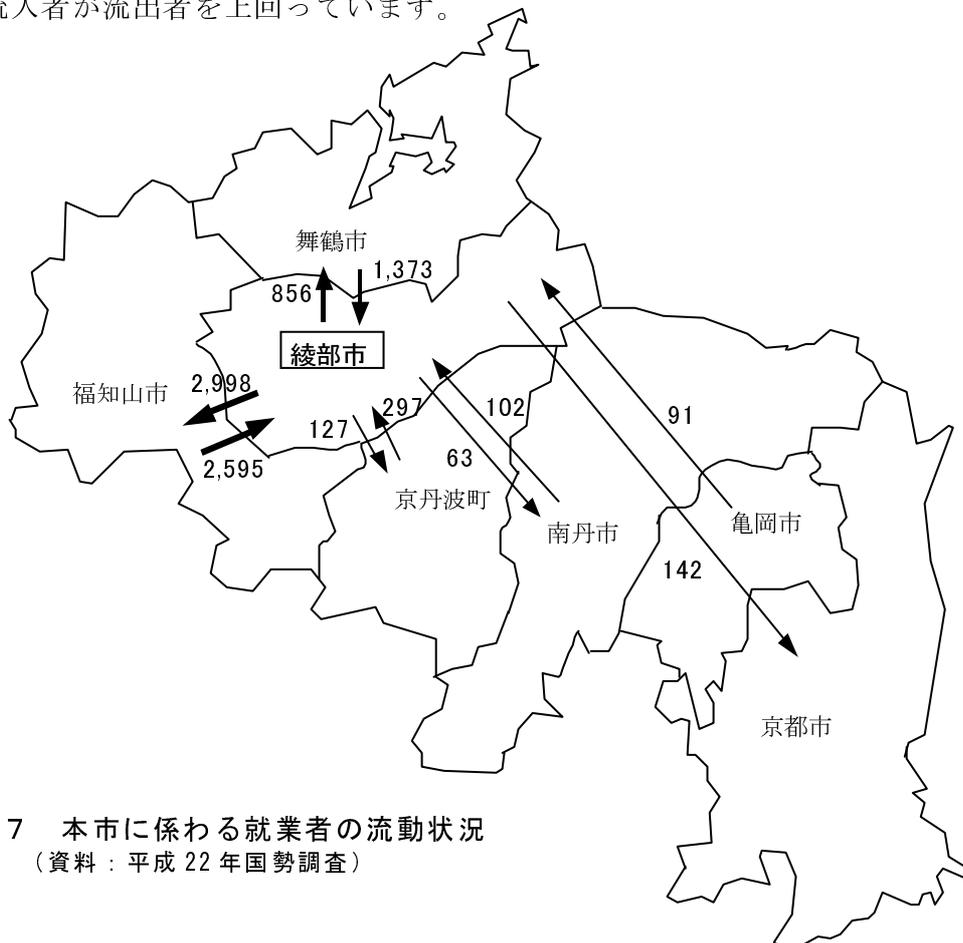


図1-7 本市に係わる就業者の流動状況
(資料：平成22年国勢調査)

表 1 - 7 本市に係わる就業者の流動状況

区分	常住地による就業者数 (人) A	流出		従業地による就業者数 (人) C	流入		流入超過数 (人) D-B	流入超過率 (%) (D-B)/C
		就業者数 (人) B	流出率 (%) B/A		就業者数 (人) D	流入率 (%) D/C		
平成2年	22,326	3,448	15.4	21,777	2,899	13.3	-549	-2.5
平成7年	22,171	3,878	17.5	21,961	3,668	16.7	-210	-1.0
平成12年	20,242	3,985	19.7	20,730	4,473	21.6	488	2.4
平成17年	19,161	4,161	21.7	20,527	5,527	26.9	1366	6.7
平成22年	16,750	4,333	25.9	17,456	4,766	27.3	433	2.5

資料：国勢調査

表 1 - 8 本市に係わる流出・流入者数が上位の都市（平成22年）

【流出先市町村】

流出率第1位			第2位			第3位			第4位			第5位		
市町村名	流出者数 (人)	流出率 (%)	市町村名	流出者数 (人)	流出率 (%)	市町村名	流出者数 (人)	流出率 (%)	市町村名	流出者数 (人)	流出率 (%)	市町村名	流出者数 (人)	流出率 (%)
福知山市	2,998	17.9	舞鶴市	856	5.1	京都市	142	0.8	京丹波町	127	0.8	南丹市	63	0.4

【流入先市町村】

流入率第1位			第2位			第3位			第4位			第5位		
市町村名	流入者数 (人)	流入率 (%)	市町村名	流入者数 (人)	流入率 (%)	市町村名	流入者数 (人)	流入率 (%)	市町村名	流入者数 (人)	流入率 (%)	市町村名	流入者数 (人)	流入率 (%)
福知山市	2,595	14.9	舞鶴市	1,373	7.9	京丹波町	297	1.7	南丹市	102	0.6	亀岡市	91	0.5

資料：国勢調査

- 注) 1. 常住地による就業者とは、当該都市に常住する(夜間人口ベース)就業者数をいう。
 従業地による就業者とは、当該都市に従業する(昼間人口ベース)就業者数をいう。
 2. 流出率=流出就業者数÷常住地による就業者数×100
 流入率=流入就業者数÷従業地による就業者数×100

(2) 産業動向

1) 事業所の概要

《産業別従業者数は、製造業、卸売・小売業、医療・福祉が多くなっています。》

平成21年の従業者数は、第1次産業が243人(1.4%)、第2次産業が6,437人(37.2%)、第3次産業が10,628人(61.4%)で、第3次産業が最も多くなっています。

大分類別では、製造業が5,369人(31.0%)で最も多く、次いで卸売・小売業が2,945人(17.0%)、医療・福祉が2,066人(12.0%)、宿泊業、飲食サービス業が964人(5.6%)となっています。

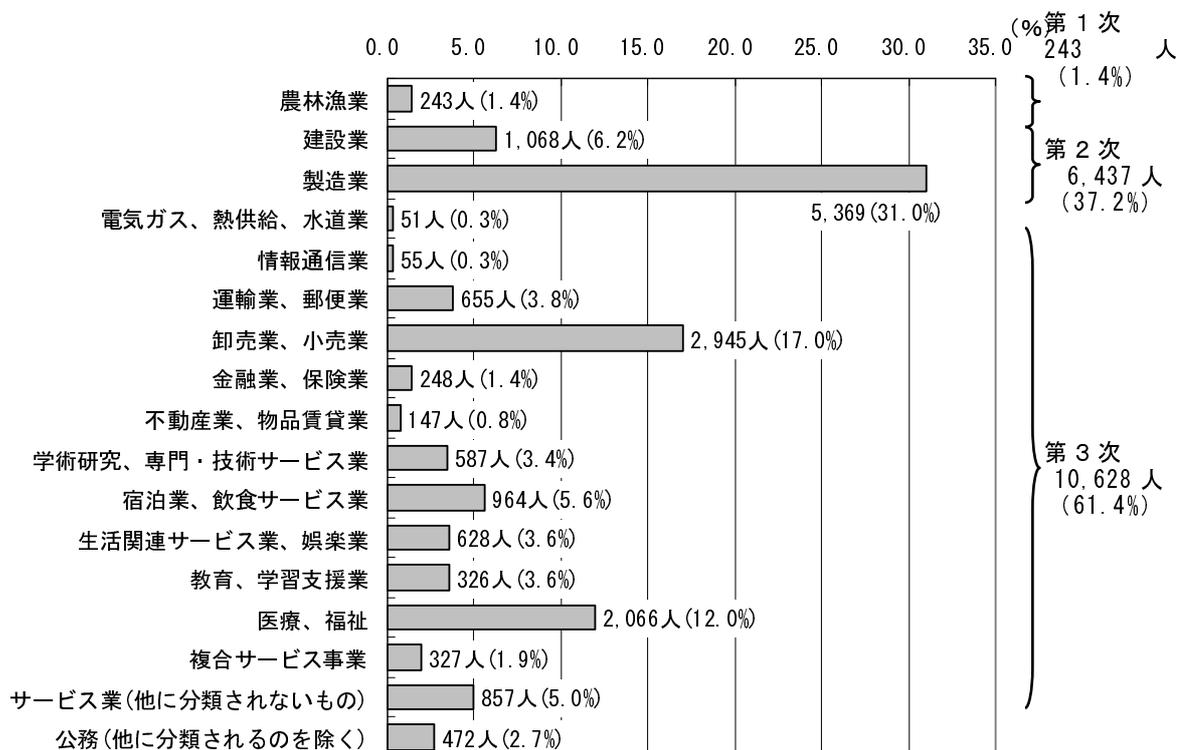


図1-8 産業大分類別事業所数・従業者数(平成21年)

表1-9 産業大分類別事業所数・従業者数(平成21年)

区分	事業所数		従業者数	
	(事業所)	構成比 (%)	(人)	構成比 (%)
総数	1,833	100.0	17,308	100.0
第1次産業	23	1.3	243	1.4
農林漁業	23	1.3	243	1.4
鉱業、採石業、砂利採取業	-	-	-	-
第2次産業	434	23.7	6,437	37.2
建設業	221	12.1	1,068	6.2
製造業	213	11.6	5,369	31.0
第3次産業	1,376	75.1	10,628	61.4
電気ガス、熱供給、水道業	6	0.3	51	0.3
情報通信業	8	0.4	55	0.3
運輸業、郵便業	42	2.3	655	3.8
卸売業、小売業	469	25.6	2,945	17.0
金融業、保険業	22	1.2	248	1.4
不動産業、物品賃貸業	41	2.2	147	0.8
学術研究、専門・技術サービス業	64	3.5	587	3.4
宿泊業、飲食サービス業	201	11.0	964	5.6
生活関連サービス業、娯楽業	154	8.4	628	3.6
教育、学習支援業	69	3.8	626	3.6
医療、福祉	111	6.1	2,066	12.0
複合サービス事業	27	1.5	327	1.9
サービス業(他に分類されないもの)	142	7.7	857	5.0
公務(他に分類されるのを除く)	20	1.1	472	2.7

資料：経済センサス基礎調査

《事業所数は減少し、従業者数は第3次産業のみ増加しています。》

事業所数は第2次、第3次産業が減少しています。

従業者数は増減を繰り返していますが、第3次産業は増加しています。

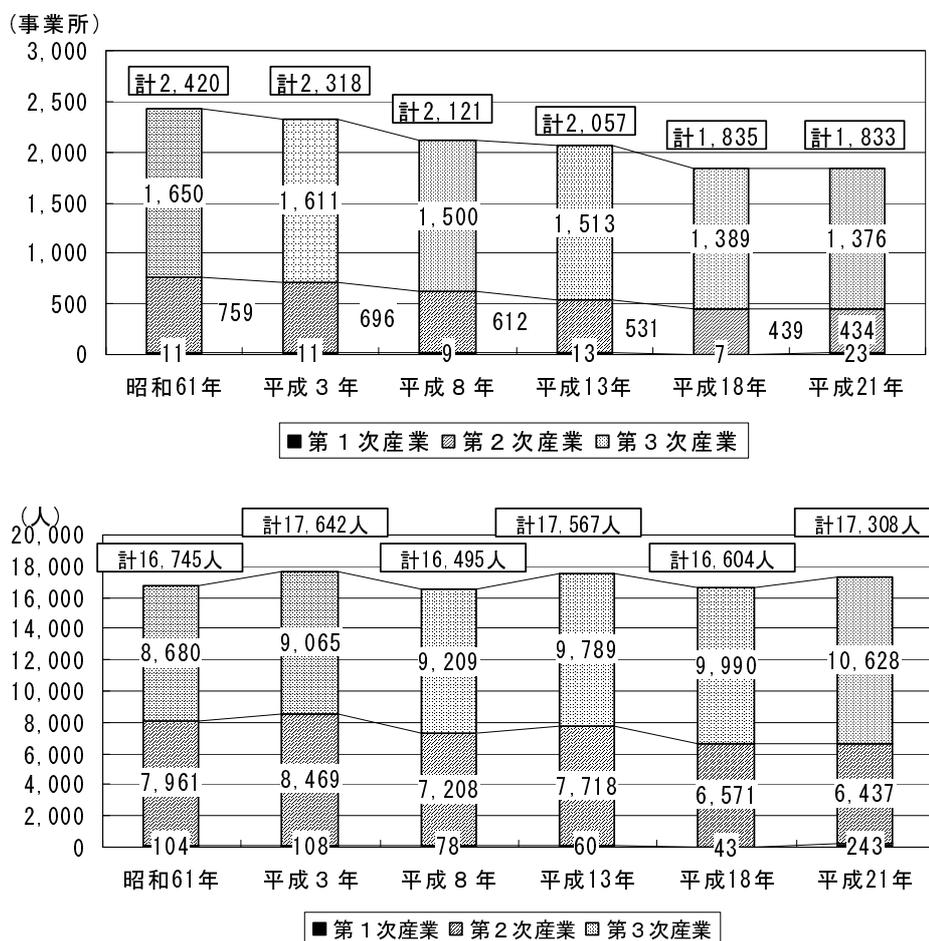


図1-9 事業所数・従業者数の推移

表1-10 事業所数・従業者数の推移

区分		昭和61年	平成3年	平成8年	平成13年	平成18年	平成21年
事業所数 (事業所)	総数	2,420	2,318	2,121	2,057	1,835	1,833
	第1次産業	11	11	9	13	7	23
	第2次産業	759	696	612	531	439	434
	第3次産業	1,650	1,611	1,500	1,513	1,389	1,376
従業者数 (人)	総数	16,745	17,642	16,495	17,567	16,604	17,308
	第1次産業	104	108	78	60	43	243
	第2次産業	7,961	8,469	7,208	7,718	6,571	6,437
	第3次産業	8,680	9,065	9,209	9,789	9,990	10,628

資料：事業所・企業統計調査報告、経済センサス-基礎調査（平成21年）

2) 農業

《農家数、経営耕地面積ともに減少しています。》

平成22年の農家数は2,801戸、経営耕地面積は1,763haになっており、農家数、経営耕地面積ともに減少しています。

表1-11 農家数、経営耕地面積の推移

区分	農家数 (戸)						経営耕地面積 (ha)					
	総数	専業農家	兼業農家	兼業農家		自給的農家	総数	自給的農家	販売農家			
				第1種兼業農	第2種兼業農				計	田	畑	樹園地
平成2年	4,437	651	2,350	315	2,035	1,436	2,404	290	2,114	1,778	208	128
平成7年	3,986	647	2,056	285	1,771	1,283	2,262	265	1,997	1,717	179	101
平成12年	3,555	584	1,704	207	1,497	1,267	2,122	265	1,858	1,631	150	77
平成17年	3,197	602	1,296	195	1,101	1,299	1,907	254	1,653	1,492	110	51
平成22年	2,801	513	1,058	98	960	1,230	1,763	237	1,526	1,359	110	58

資料：農業センサス

注：平成2年～22年の専業農家、兼業農家は販売農家についての集計であり、総数は販売農家と自給的農家の合計である。

3) 工業

《事業所数、従業者数、製造品出荷額等は共に増減を繰り返し、平成19年以降は減少傾向になっています。》

平成3年に京都府綾部工業団地の第一工区、平成6年に第二工区が分譲を開始し、平成12年には綾部市工業団地が操業を開始しました。

平成22年の事業所数は108事業所、従業者数は4,468人、製造品出荷額等は約102,660百万円になっています。

事業所数、従業者数、製造品出荷額ともに増減を繰り返しています。

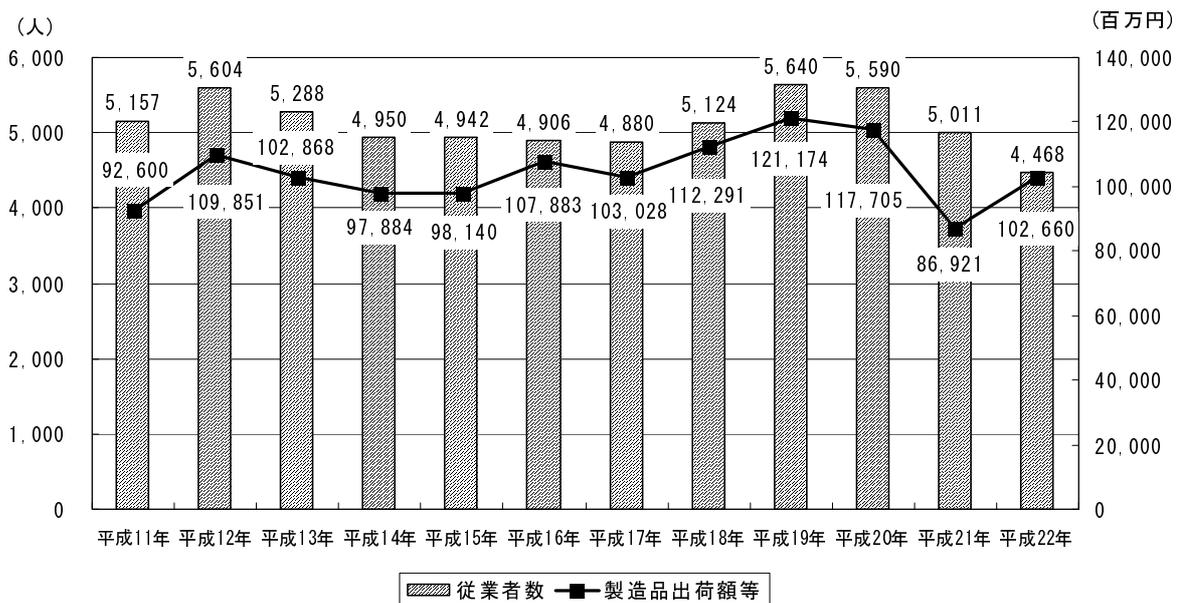


図1-10 工業（従業者数4人以上）の推移

表1-12 工業（従業者数4人以上）の推移

区分	事業所数 (事業所)	従業者数 (人)	製造品出荷額 等 (百万円)
平成11年	146	5,157	92,600
平成12年	147	5,604	109,851
平成13年	145	5,288	102,868
平成14年	129	4,950	97,884
平成15年	125	4,942	98,140
平成16年	118	4,906	107,883
平成17年	119	4,880	103,028
平成18年	115	5,124	112,291
平成19年	121	5,640	121,174
平成20年	132	5,590	117,705
平成21年	118	5,011	86,921
平成22年	108	4,468	102,660

資料：工業統計表

《主な製造業は、電気機械器具製造業、金属製品製造業、食料品製造業となっています。》

平成22年の産業中分類の製造品出荷額等は、電気機械器具製造業が23,374百万円(22.8%)、金属製品製造業が約14,932百万円(14.5%)、食料品製造業が約9,054百万円(8.8%)で、全体の約5割を占めています。

表1-13 工業(中分類)の製造品出荷額等(平成22年)

区 分	製造品出荷額等 (百万円)	構成比(%)
総 額	102,660	100.0
食料品製造業	9,054	8.8
飲料・たばこ・飼料製造業	X	X
繊維製造業	3,005	2.9
木材・木製品製造業	603	0.6
家具・装備品製造業	X	X
パルプ・紙・紙加工品製造業	X	X
印刷製造業	-	X
化学製造業	X	X
石油・石炭製造業	X	X
プラスチック製品製造業	2,692	2.6
ゴム製品製造業	X	X
皮革製造業	361	0.4
窯業・土石製品製造業	X	X
鉄鋼業	X	X
非鉄金属製造業	X	X
金属製品製造業	14,932	14.5
はん用機械器具製造業	2,668	2.6
生産用機械器具製造業	6,409	6.2
業務用機械器具製造業	3,484	3.4
電子部品製造業	X	X
電気機械器具製造業	23,374	22.8
情報通信器具製造業	X	X
輸送用機械器具製造業	7,378	7.2
その他の製造業	X	X

資料：工業統計調査

《人口千人あたりの事業所数、従業者数、製造品出荷額ともに、京都府や近隣市町と比較し高くなっています。》

工業について、近隣市町と平成22年時点の人口千人あたりの数値を比較すると、事業所数は、京丹波町を除き、京都府平均、近隣市を上回っています。従業者数、製造品出荷額等は共に京都府平均、近隣市町を上回っています。

表1-14 工業の周辺都市等との比較(平成22年)

区 分		綾部市	福知山市	舞鶴市	宮津市	京丹波町	京都府
総 数	事業所数(事業所)	108	169	129	29	48	5,004
	従業者数(人)	4,468	7,360	3,524	516	1,470	140,757
	製造品出荷額等 (百万円)	102,660	225,667	169,083	9,406	24,732	4,832,897
人口千人 当たり	事業所数(事業所)	3.0	2.1	1.5	1.5	3.1	1.9
	従業者数(人)	125	92	40	26	93	53
	製造品出荷額等 (百万円)	2,865	2,833	1,907	472	1,572	1,833
平成22年人口(人)		35,836	79,652	88,669	19,948	15,732	2,636,092

資料：平成22年工業統計表(従業者4人以上の事業所)、平成22年国勢調査

4) 商業

《小売業では、従業者数は減少傾向になっていますが、年間販売額は平成14年以降増加傾向になっていています。》

平成19年の卸売・小売業は、事業所数が514事業所、従業者数が2,614人、年間販売額が55,372百万円になっています。このうち、小売業は、事業所数が448事業所、従業者数が2,244人、年間販売額が39,658百万円になっています。

小売業の従業者数は平成9年から11年にかけて増加しましたが、平成11年以降は減少しています。年間販売額は平成14年までは減少していましたが、平成16年以降は増加しています。

小売業（平成19年）の内訳は、その他小売業、飲食料品小売業が事業所数、従業者数、年間販売額等の割合が大きくなっています。

また、大規模小売店舗数（店舗面積1,000㎡以上）は8店舗立地しています。

表1-15 卸売・小売業の推移

区 分		事業所数 (事業所)	従業者数 (人)	年間販売額 (百万円)
卸・小売業 (総数)	平成9年	638	2,719	62,310
	平成11年	647	2,951	52,572
	平成14年	560	2,742	47,600
	平成16年	551	2,718	53,468
	平成19年	514	2,614	55,372
うち小売業	平成9年	578	2,312	36,845
	平成11年	577	2,615	37,683
	平成14年	503	2,419	32,570
	平成16年	485	2,374	37,259
	平成19年	448	2,244	39,658

資料：商業統計表

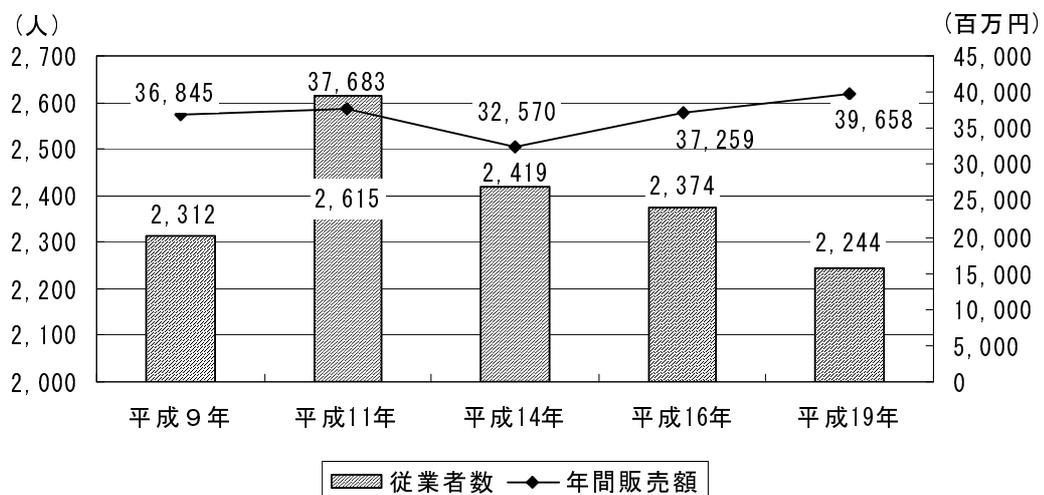


図1-11 小売業の従業者数、年間販売額の推移

表 1 - 1 6 小売業（中分類）の事業所数、従業者数、年間販売額等（平成 1 9 年）

区分	事業所数 (事業所)	従業者数 (人)	年間商品販売額 (百万円)	売り場面積 (㎡)
小売業 計	448	2,244	39,658	44,434
各種商品小売業	5	163	3,477	5,273
織物・衣服・身の回り品 小売業	56	156	1,616	4,614
飲食料品小売業	131	816	15,514	10,923
自動車・自転車小売業	46	229	5,145	1,615
家具・じゅう器・ 機械器具小売業	49	136	1,366	5,010
その他の小売業	161	744	12,539	16,999

資料：商業統計表

表 1 - 1 7 本市及び周辺都市の大規模小売店舗数（店舗面積 1, 0 0 0 ㎡以上）

市町村名	既存店舗数（店）	既存店舗面積（㎡）
綾部市	8	23,037
福知山市	9	47,299
舞鶴市	22	89,019
宮津市	2	13,210
京丹波町	1	4,612

資料：2012全国大型小売店総覧（週刊東洋経済）

注：調査は2011年5月、新規店舗は2011年4月まで届出のもの

《人口千人あたりの事業所数、従業者数、年間販売額は、共に京都府平均や近隣市町とおおむね同値になっています。》

小売業について、近隣市町と平成 1 9 年時点の人口千人あたりの数値を比較すると、事業所数、従業者数、年間販売額は共に京都府平均や近隣市町の値とおおむね同値になっています。

表 1 - 1 8 小売業の周辺都市等との比較（平成 1 9 年）

区分		綾部市	福知山市	舞鶴市	宮津市	京丹波町	京都府
総 数	事業所数（事業所）	448	938	1,034	371	183	26,964
	従業者数（人）	2,244	5,725	5,714	1,573	914	177,376
	年間販売額（百万円）	39,658	94,213	95,098	22,125	14,209	3,022,498
人口千 人当 た り	事業所数（事業所）	12	12	11	18	11	10
	従業者数（人）	60	71	63	76	55	67
	年間販売額（百万円）	1,068	1,165	1,051	1,073	862	1,146
平成19年人口（人）		37,145	80,881	90,447	20,628	16,483	2,638,510

資料：商業統計表、京都府推計人口調査（平成19年10月1日現在）（京都府調査統計課）

(3) 土地利用状況

1) 土地利用現況

《市街化区域において宅地等の都市的土地利用は約72%を占めていますが、農地や山林は約20%残っています。都市計画区域は山林等の自然的土地利用が約90%を占めています。》

市街化区域内の土地利用は、宅地が43.9%で、宅地や道路用地などの都市的土地利用が71.9%を占め、農地が7.1%、山林が11.3%となっています。

都市計画区域の土地利用は、山林が69.5%、農地が15.2%を占め、これらの自然的土地利用が約90%を占めています。一方、宅地は4.9%で、宅地や道路用地などの都市的土地利用が10.3%と少なくなっています。

表1-19 土地利用現況面積表【都市計画区域】（平成20年3月末時点）

区分	自然的土地利用							都市的土地利用								合計		
	農地			山林	水面	その他の自然 地	小計	宅地				公共・公益 用地	道路 用地	交通 施設 用地	その 他の 施設 用地		その 他の 空地	小計
	田	畑	小計					住宅 用地	商業 用地	工業 用地	小計							
市街化区域 (ha)	21.3	31.1	52.4	83.7	8.1	63.8	207.9	169.0	34.1	121.5	324.7	65.2	82.9	6.5	0.0	52.7	532.0	739.9
構成比 (%)	2.9	4.2	7.1	11.3	1.1	8.6	28.1	22.8	4.6	16.4	43.9	8.8	11.2	0.9	0.0	7.1	71.9	100.0
市街化調整区域 (ha)	1,998.5	920.3	2,918.8	13,500.8	263.7	645.5	17,328.7	536.1	34.9	57.5	628.4	161.7	495.1	16.2	5.2	167.7	1,474.3	18,803.0
構成比 (%)	10.6	4.9	15.5	71.8	1.4	3.4	92.2	2.9	0.2	0.3	3.3	0.9	2.6	0.1	0.0	0.9	7.8	100.0
合計 (ha)	2,019.8	951.4	2,971.2	13,584.4	271.8	709.2	17,536.6	705.1	69.1	179.0	953.1	226.9	578.0	22.6	5.2	220.4	2,006.3	19,542.9
構成比 (%)	10.3	4.9	15.2	69.5	1.4	3.6	89.7	3.6	0.4	0.9	4.9	1.2	3.0	0.1	0.0	1.1	10.3	100.0

資料：都市計画基礎調査（平成20年3月31日現在）

注）「公共・公益用地」は「公益施設用地」と「公共空地」の合計。

《市街化区域内の用途地域面積は、商業系が約4%、住居系が約59%、工業系が約37%指定しています。》

市街化区域の用途地域面積は、商業系用途地域は約4%、住居系用途地域は約59%、工業系用途地域は約37%を指定しています。

表1-20 用途地域別面積表

（平成24年3月末時点）

区分	面積 (ha)	構成比 (%)
都市計画区域	19,543	-
市街化区域計	740	100.0
第1種低層住居専用地域	90	12.2
第1種中高層住居専用地域	101	13.7
第2種中高層住居専用地域	7	0.9
第1種住居地域	153	20.7
第2種住居地域	32	4.3
準住居地域	54	7.3
近隣商業地域	24	3.2
商業地域	5	0.7
準工業地域	81	11.0
工業地域	44	5.9
工業専用地域	149	20.1
市街化調整区域	18,803	-

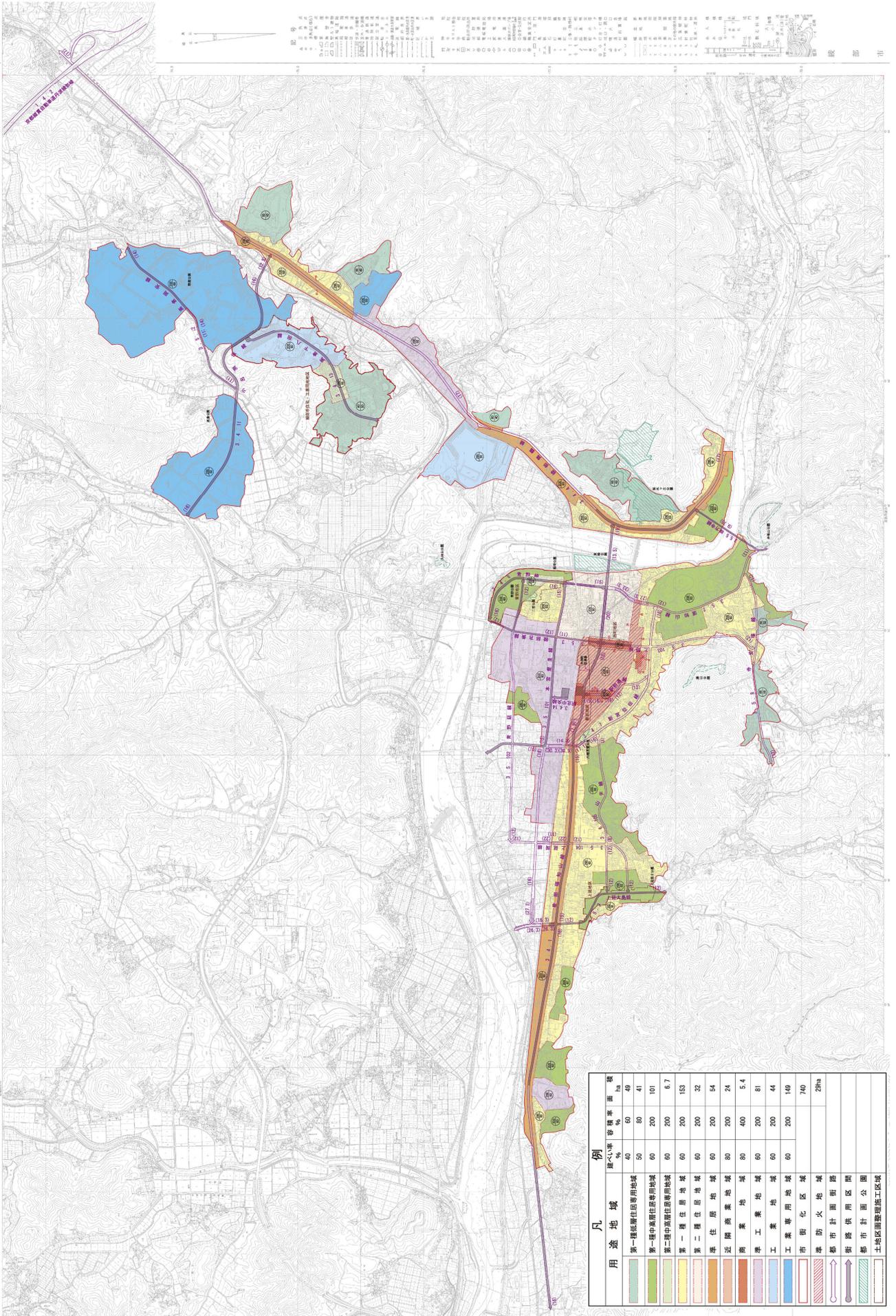


图 1-1-2 都市計画図

《農業振興地域や農用地区域、地域森林計画対象民有林や保安林が指定されています。》

その他の各種法指定状況としては、農業振興地域が市街化区域を除いて広く指定され、農用地区域が谷部の集团的農地に指定されています。

また、地域森林計画対象民有林が谷部などの一部を除いて広く指定され、保安林が於与岐町、内久井町、安場町周辺の山林に指定されています。

表 1 - 2 1 法指定面積表（平成 2 4 年時点）

地 域・地 区	面 積 (ha)
農業振興地域	15,580
農用地区域	3,014
地域森林計画対象民有林	26,166
保安林	9,300

資料：都市建築課、農林課資料

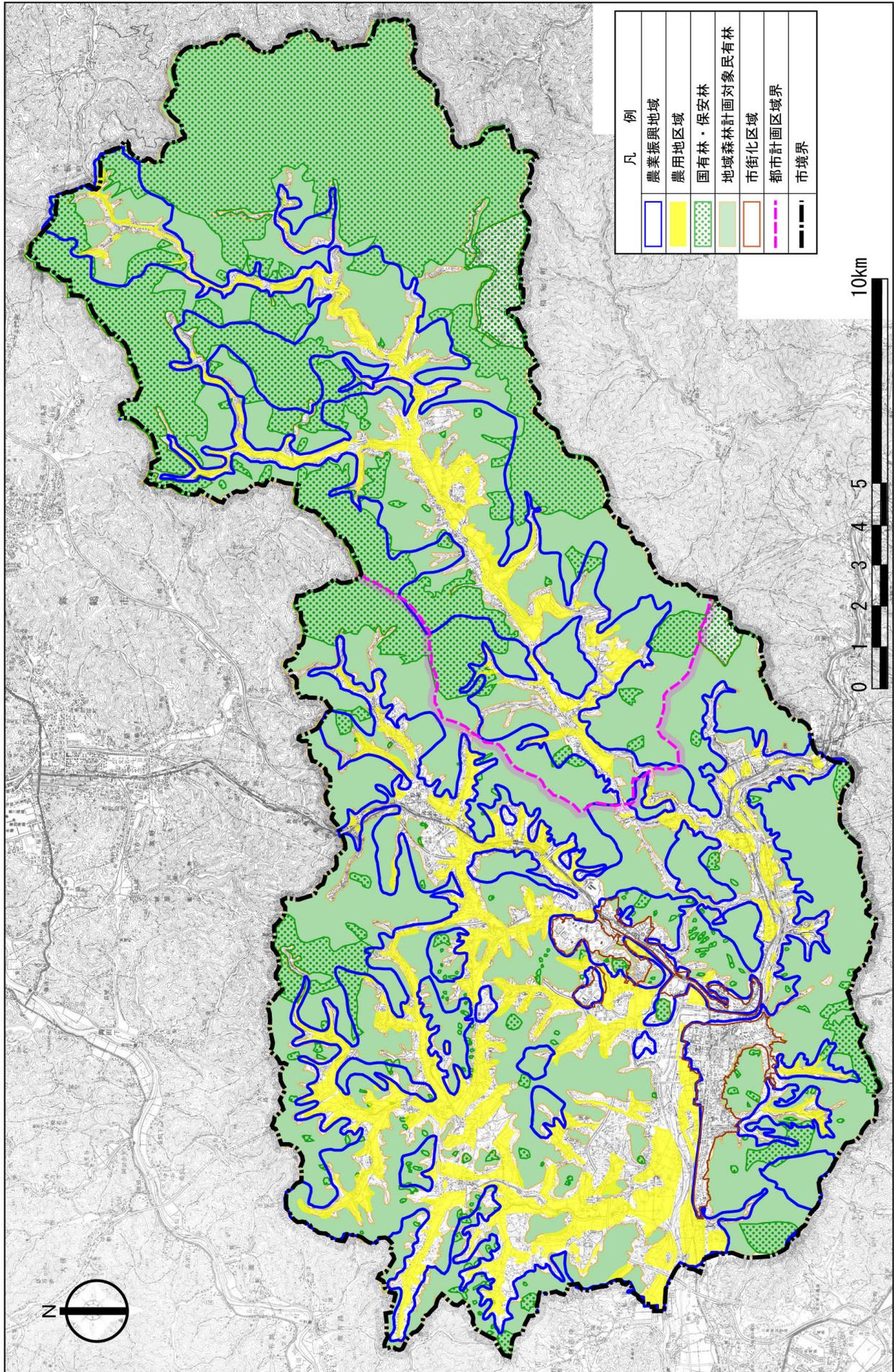


图 1-13 法指定現況图

(4) 都市施設

1) 都市計画道路

《都市計画道路は21路線、計画延長54.62kmを計画し、整備率は65.8%、幹線街路整備率は50.1%です。》

都市計画道路は、京都縦貫自動車道綾部宮津線、綾部舞鶴線（国道27号）、綾部福知山線（主要地方道福知山綾部線）など21路線、計画延長54.62kmを計画し、整備済延長は35.96kmで整備率は65.8%です。

また、都市計画道路のうち幹線街路は、市街化区域を中心に37.41kmを計画し、整備延長は18.75kmで整備率は50.1%です。

表1-22 都市計画道路現況（平成24年3月末時点）

区分	合計	自動車 専用道路	幹線街路		
			計	うち 市街化区域	
延長 (km)	計画	54.62	17.21	37.41	27.07
	整備済	35.96	17.21	18.75	15.13
整備率	65.8%	100.0%	50.1%	55.9%	

資料：都市建築課

2) 都市公園

《都市公園は44箇所、63.4haで開設し、都市計画区域内人口一人あたりの面積は19.00㎡/人となっています。》

都市公園は、綾部市総合運動公園、紫水ヶ丘公園など10箇所の都市計画公園を含み、44箇所、63.4haで開設しています。都市計画区域内人口一人あたりの面積は19.00㎡/人となり、京都府の11.6㎡/人（平成24年3月末時点）を大きく上回っています。

表1-23 都市公園現況（平成24年3月末時点）

区分	総数	街区公園	近隣公園	地区公園	総合公園	運動公園	風致公園	その他の公園	都市計画区域内人口	1人当たり面積
箇所	44	29	-	1	1	2	6	5	33	19.00
面積 (ha)	63.4	3.3	-	3.1	12.0	28.6	8.9	7.5	(千人)	(㎡/人)

注 数値は都市計画区域内の数値である。

3) 公共下水道

≪処理区域計画面積479haを都市計画決定し、そのうち323haが整備済です。≫

公共下水道の全体計画は801haで、綾部地区、中筋地区の綾部処理区と、吉美地区の綾部第2処理区において、処理区域計画面積479haを都市計画決定しています。

平成24年3月末時点で整備済は323ha、そのうち供用している処理区域は303haです。

表1-24 公共下水道現況（平成24年3月末時点）

区 分	処 理 区 域			処 理 場	
	市街化 区 域 (ha)	市街化 調整区域 (ha)	計 (ha)	箇所数 (個)	面積 (m ²)
都市計画決定	411	68	479	2	34,300
整 備 済	274.8	48.6	323.4	2	34,300
供 用 済	258.8	44.1	302.9	2	34,300

資料：下水道課

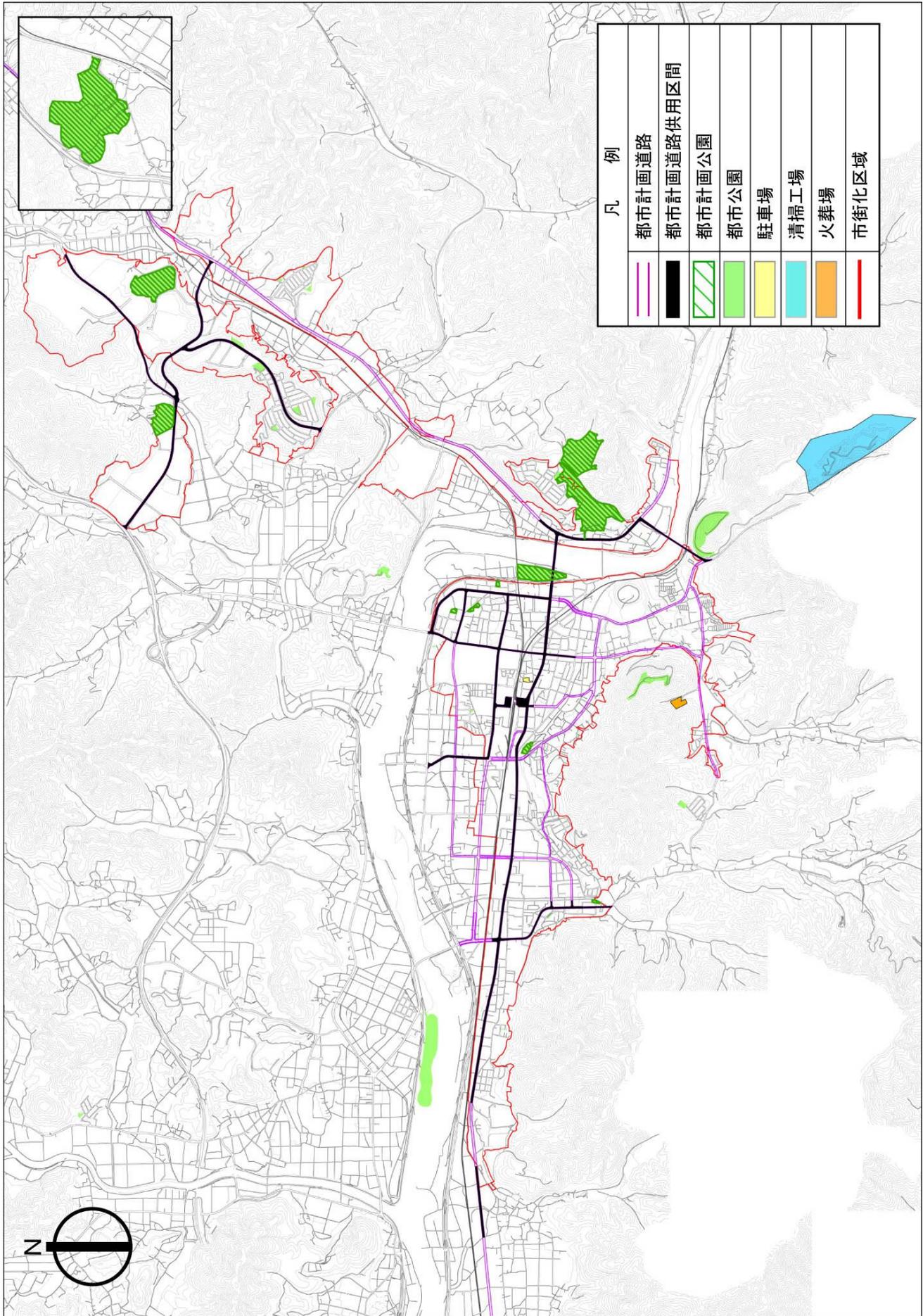
4) 上水道

≪上水道事業は、給水人口28,534人、給水戸数12,782戸となっており、水道普及率は98.8%となっています。≫

上水道は上水道と簡易水道により給水し、平成24年3月末時点で、給水人口が28,534人、給水戸数が12,782戸となっており、水道普及率は98.8%となっています。

表1-25 上水道現況（平成24年3月末時点）

事 項	平成23年度
年度末給水人口(人)	28,534
年度末給水戸数(戸)	12,782
年間総配水量(m ³)	3,903,782
年間総給水量(m ³)	3,243,468



凡 例	
	都市計画道路
	都市計画道路供用区間
	都市計画公園
	都市公園
	駐車場
	清掃工場
	火葬場
	市街化区域

图 1 - 1 4 都市施設整備状況图

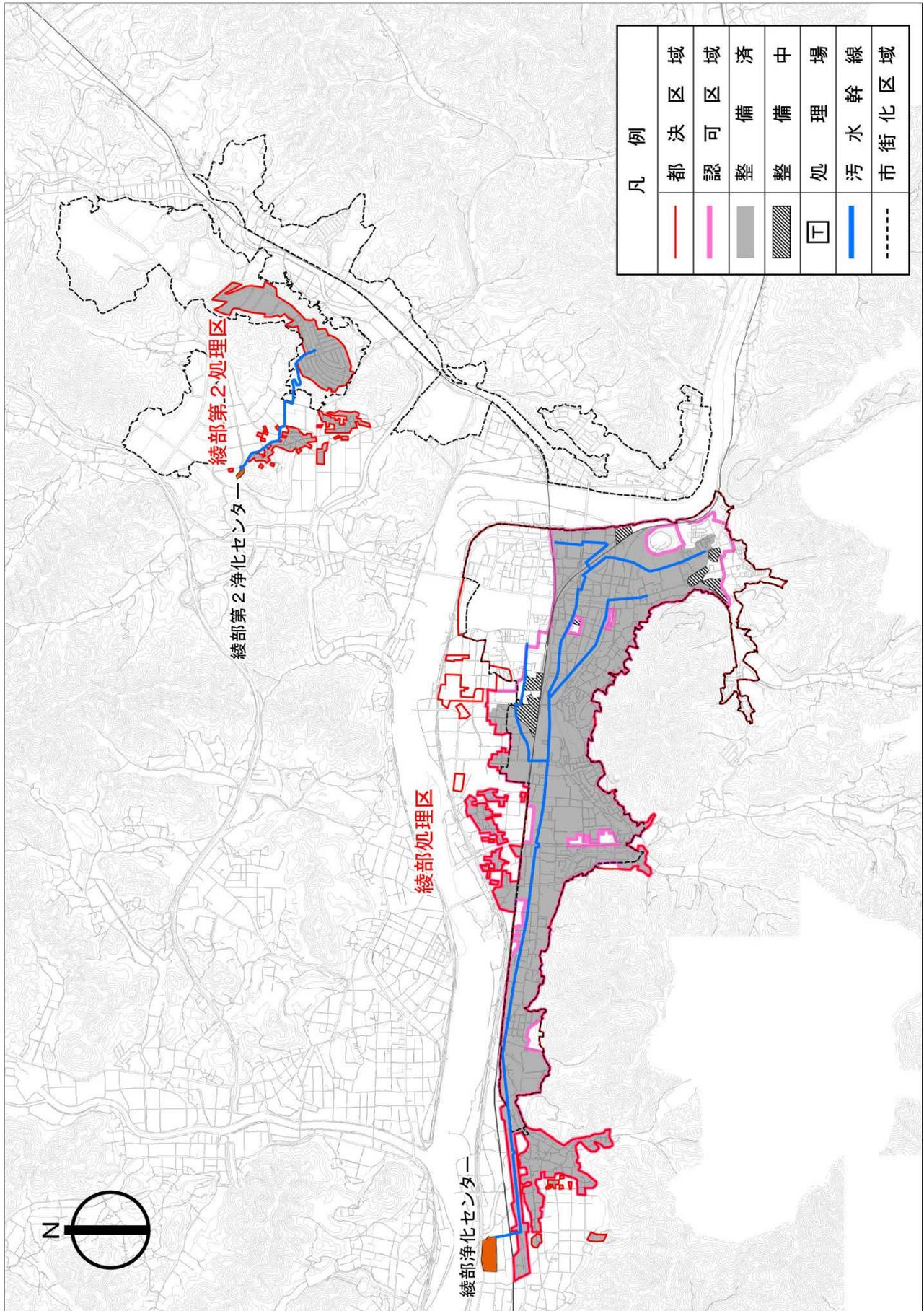


图 1-15 下水道整備状況图

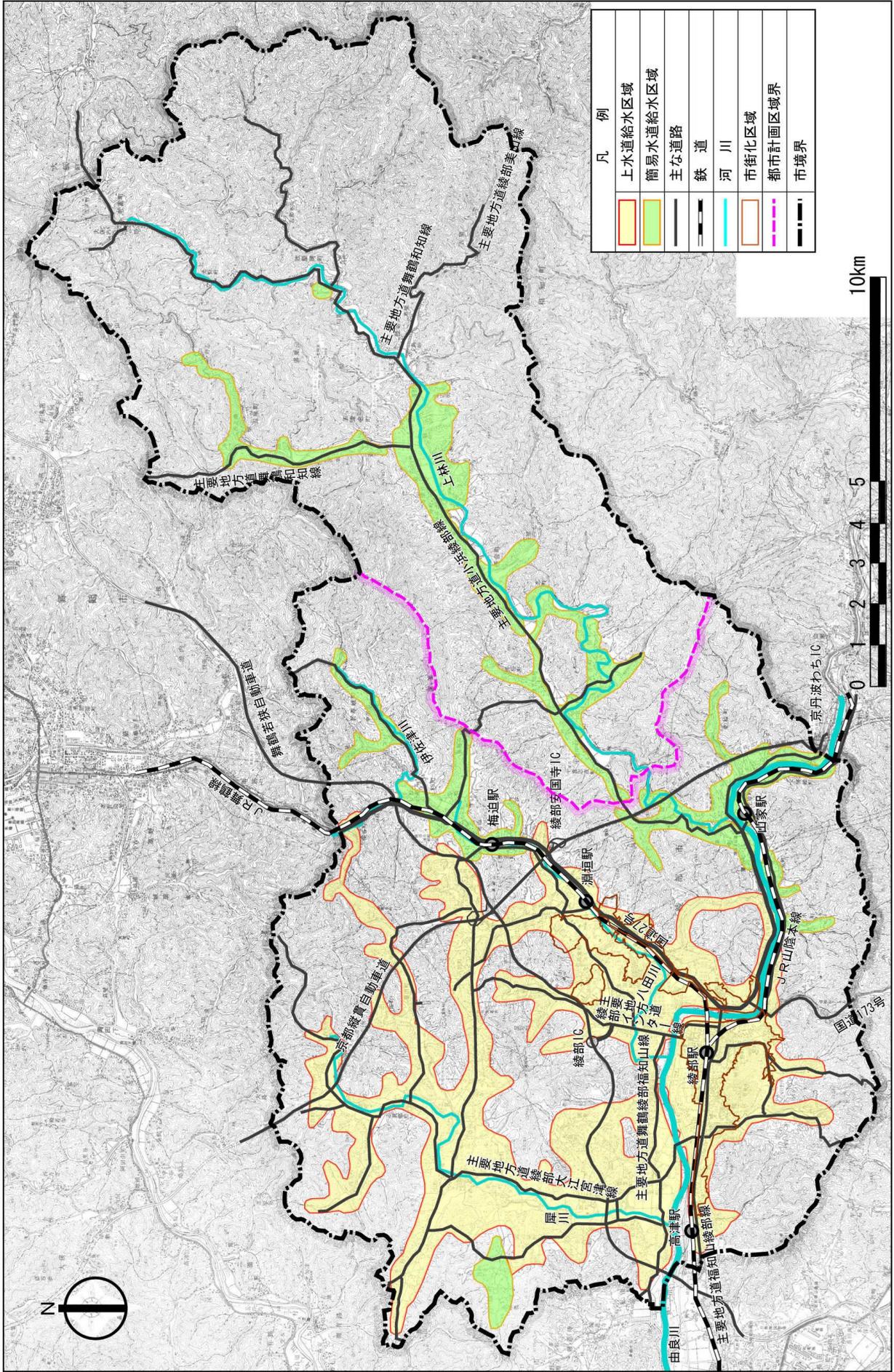


図 1 - 1 6 給水区域図

(5) 交通

1) 道路

①道路網

≪自動車専用道路2路線と、国道2路線が骨格を形成し、府道などにより道路網が形成されています。≫

舞鶴若狭自動車道が阪神都市圏と若狭湾方面に、京都縦貫自動車道が京都府南部地域と北部地域に連絡（丹波・京丹波わち間は平成26年度完成予定）し、北近畿有数の交通結節点となっています。

また、国道27号と173号が京都府域を南北方向に縦断し、京都市や舞鶴市方面に連絡しており、主要地方道福知山綾部線などの府道6路線が福知山市、舞鶴市、福井県方面などに連絡しています

市域内には、国道、主要地方道の他、一般府道や、市道の一部（都市計画道路）などにより道路網が形成され、市街地や周辺地域の集落地と連絡しています。

②道路交通量と混雑度

≪舞鶴若狭自動車道などの一部区間は交通量が多くなっていますが、国道、府道の大部分は円滑に交通できる状況になっています。≫

平成22年度の道路の自動車類交通量は、昼間12時間で福知山綾部線が13,073台で最も多く、次いで、舞鶴若狭自動車道が12,260台、舞鶴綾部福知山線が9,506台と続いています。

また、主要な道路の混雑度については、舞鶴若狭自動車道が1.24、福知山綾部線が1.36で高くなっていますが、京都縦貫自動車道、国道27号、173号は1.0未満になっています。

その他の主要地方道や一般府道は、自動車類交通量が昼間12時間で10,000台未満、混雑度は1.0未満（推計値は除く。）となっています。

表1-26 主要な道路の交通量等

路線番号	路線名	区間		平成22年度			平成17年度	
		起点側	終点側	自動車類交通量		混雑度	自動車類交通量	
				昼間12時間	24時間		昼間12時間	24時間
1210	舞鶴若狭自動車道	福知山市・綾部市境	綾部インター線(綾部IC)	11,251	14,970	1.24	4,520	5,869
		綾部インター線(綾部IC)	一般国道478号(綾部JCT)	12,260	16,322	0.34	4,709	6,093
		一般国道478号(綾部JCT)	綾部市・舞鶴市境	12,152	16,241	0.31	3,905	5,130
27	一般国道27号	舞鶴市・綾部市境	一般国道478号	6,313	8,223	0.83	8,984	12,358
		一般国道478号	H17センサス区間境(市道)	6,175	8,522	0.55	8,984	12,358
		H17センサス区間境(市道)	福知山綾部線	7,687	9,801	0.97	11,183	14,920
		福知山綾部線	一般国道173号	8,748	10,861	0.96	10,688	13,600
		一般国道173号	山家停車場線	6,104	7,630	0.64	7,458	9,296
173	一般国道173号	山家停車場線	綾部市・京丹波町境	4,422	5,572	0.84	5,403	6,821
		福知山市・綾部市境	一般国道27号	3,246	4,220	0.46	4,018	5,545
478	一般国道478号 (京都縦貫自動車道)	舞鶴市・綾部市境	舞鶴若狭自動車道 綾部JCT	3,263	3,865	0.68	1,729	2,023
		舞鶴若狭自動車道 綾部JCT	一般国道27号 綾部安国寺IC	2,861	3,621	0.54	799	937
		一般国道27号 綾部安国寺IC	一般国道27号 京丹波わちIC	2,702	3,417	0.54	-	-
1	小浜綾部線	小浜綾部線	名田庄綾部線	453	584	0.55	469	586
		名田庄綾部線	舞鶴和知線	954	1,231	0.79	989	1,236
		舞鶴和知線	舞鶴和知線	954	1,231	0.24	989	1,236
		舞鶴和知線	上杉和知線	1,895	2,445	0.35	2,488	3,185
		上杉和知線	一般国道27号	3,148	4,061	0.49	3,331	4,164
8	福知山綾部線	福知山市・綾部市境	綾部大江宮津線	8,235	10,560	0.88	12,135	16,868
		綾部大江宮津線	中山綾部線	13,073	16,733	1.36	14,545	18,883
		中山綾部線	一般国道27号	9,128	11,684	0.96	10,898	15,148
9	綾部大江宮津線	福知山綾部線	舞鶴綾部福知山線	3,982	5,137	0.46	5,253	6,724
		舞鶴綾部福知山線	物部梅迫停車場線	4,389	5,662	0.58	4,798	6,141
		物部梅迫停車場線	綾部市・福知山市境	2,098	2,706	0.33	2,268	2,903
51	舞鶴和知線	舞鶴市・綾部市境	小浜綾部線	857	1,106	0.11	733	916
		小浜綾部線	綾部美山線	428	552	0.24	451	564
74	舞鶴綾部福知山線	舞鶴市・綾部市境	一般国道27号	972	1,157	0.65	981	1,256
		一般国道27号	淵垣上八田線	1,507	1,793	0.98	2,685	3,437
		淵垣上八田線	綾部インター線	1,507	1,793	0.25	2,685	3,437
		綾部インター線	綾部インター線	5,322	6,333	0.76	6,293	8,055
		綾部インター線	綾部大江宮津線	5,322	6,333	0.71	6,293	8,055
		綾部大江宮津線	私市大江線	4,593	5,466	0.56	4,774	6,111
		私市大江線	綾部市・福知山市境	9,506	11,303	0.95	9,597	12,284
77	綾部インター線	福知山綾部線	舞鶴綾部福知山線	5,127	6,665	0.59	6,111	7,639
		舞鶴綾部福知山線	舞鶴若狭自動車道	4,622	6,009	0.55	5,509	7,052
450	広野綾部線	京丹波町・綾部市境	一般国道27号	156	201	0.07	164	205
481	上杉和知線	一般国道27号	小浜綾部線	378	488	0.15	392	490
		小浜綾部線	小浜綾部線	378	488	0.17	392	490
482	山家停車場線	一般国道27号	3,883	5,048	1.50	3,974	4,968	
483	安場田野線	三俣綾部線	中山綾部線	1,988	2,565	0.32	2,060	2,575
484	淵垣上八田線	一般国道27号	舞鶴綾部福知山線	934	1,205	0.13	3,974	4,968
		舞鶴綾部福知山線	物部梅迫停車場線	791	1,020	0.14	2,262	2,828
485	物部梅迫停車場線	綾部大江宮津線	舞鶴綾部福知山線	2,511	3,239	0.37	2,920	3,650
		舞鶴綾部福知山線	舞鶴綾部福知山線	3,835	4,947	1.55	3,974	4,968
486	篠田七百石線	綾部大江線	物部梅迫停車場線	262	338	0.06	271	339
487	老富舞鶴線	小浜綾部線	小浜綾部線	435	561	0.45	451	564
488	小貝豊里線	舞鶴綾部福知山線	綾部大江宮津線	1,441	1,859	0.26	1,493	1,866
489	小西西坂線	小貝豊里線	綾部大江宮津線	764	986	0.32	792	990
490	物部西舞鶴線	綾部大江宮津線	金河内地頭線	1,210	1,561	0.17	1,254	1,568
		金河内地頭線	金河内地頭線	1,210	1,561	0.17	1,254	1,568
491	金河内地頭線	物部西舞鶴線	物部西舞鶴線	-	-	-	-	-
492	私市大江線	舞鶴綾部福知山線	綾部市・福知山市境	961	1,240	0.36	672	840
493	西坂蓼原線	綾部大江宮津線	綾部市・福知山市境	372	480	0.05	392	490
494	綾部大江線	舞鶴若狭自動車道	物部梅迫停車場線	5,498	7,092	0.79	8,128	10,160
		物部梅迫停車場線	物部梅迫停車場線	1,988	2,565	10.19	2,060	2,575
		篠田七百石線	物部西舞鶴線	1,988	2,565	0.75	2,060	2,575
		物部西舞鶴線	物部西舞鶴線	-	-	-	-	-
522	三俣綾部線	福知山市・綾部市境	安場田野線	1,417	1,828	0.96	1,493	1,866
		安場田野線	福知山綾部線	1,988	2,565	1.11	2,060	2,575
709	中山綾部線	福知山市・綾部市境	安場田野線	1,417	1,828	2.13	1,493	1,866
		安場田野線	福知山綾部線	1,417	1,828	0.29	1,493	1,866
771	名田庄綾部線	小浜綾部線	小浜綾部線	-	-	-	-	-

資料：平成22年度道路交通センサス 一般交通量調査 箇所別基本表

注) 斜体で示した交通量及び混雑度は推定値です。

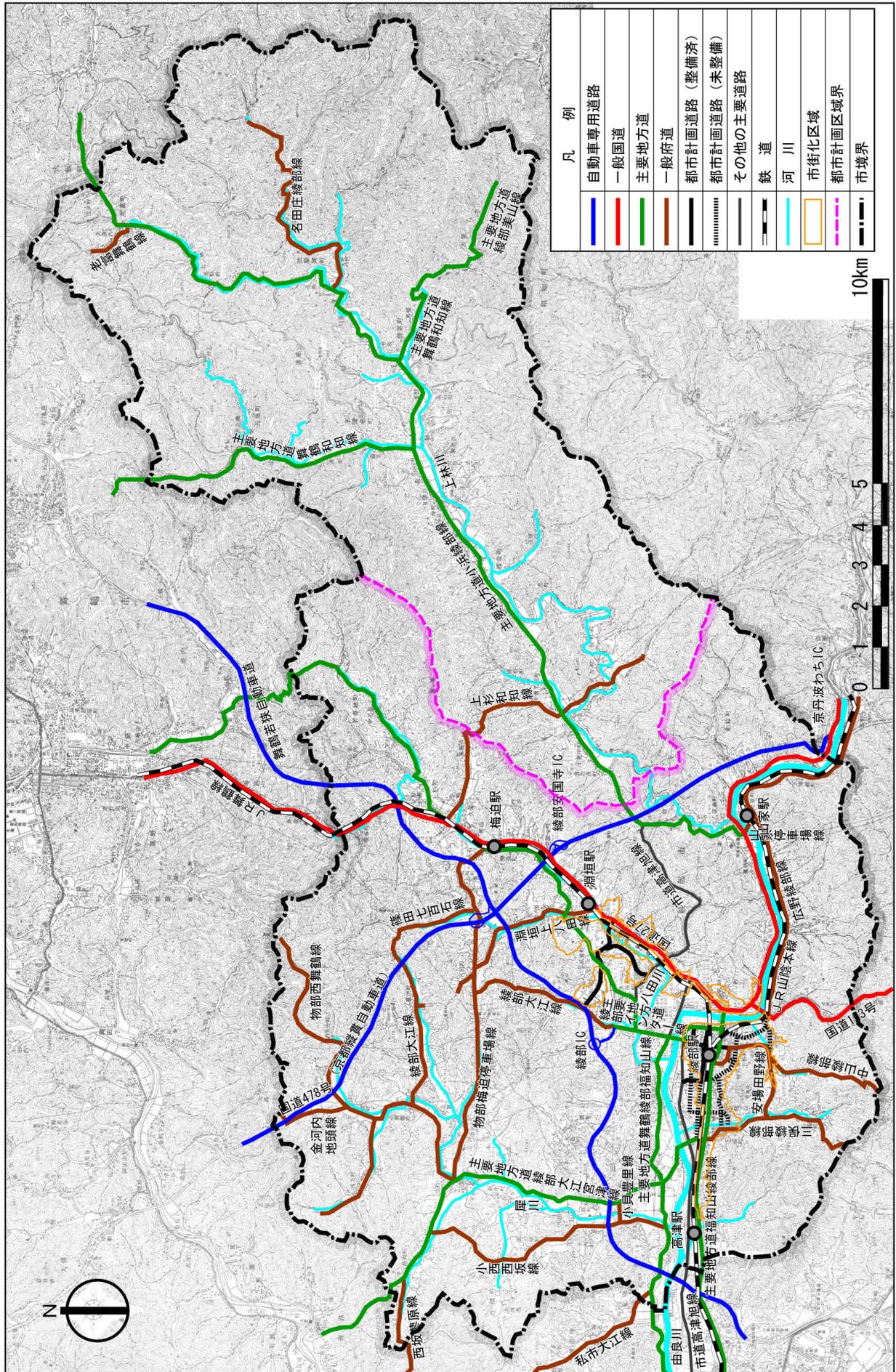


図 1 - 1 7 道路・鉄道現況図

2) 公共交通

① 鉄道

≪市内にはJR山陰本線と舞鶴線が運行されており5駅あります。乗車人数は減少傾向にありましたが、平成22年度以降増加しています。≫

JR山陰本線が京都、福知山・山陰方面に、JR舞鶴線が綾部駅から舞鶴市・若狭方面に連絡しています。

鉄道駅は、JR山陰本線に高津駅、綾部駅、山家駅、JR舞鶴線に湊垣駅、梅迫駅があります。市内の一日平均の乗車人数は平成23年度1,833人で、減少傾向にありましたが、平成22年度以降増加しています。

表1-27 JR乗車人数

年度	駅数 (駅)	乗車人数(一日平均) (人)
平成17年度	5	1,876
平成18年度	5	1,846
平成19年度	5	1,790
平成20年度	5	1,765
平成21年度	5	1,659
平成22年度	5	1,763
平成23年度	5	1,833

資料提供：西日本旅客鉄道(株)福知山支社

② バス交通

≪あやバスなどが市立病院や綾部駅を中心に運行し、運行開始以降乗車人数は増加傾向にありましたが、平成23年度以降減少しています。≫

バス交通は、あやべ市民バス(あやバス)、京都交通(株)、福知山市営バスがあります。

あやバスは、綾部市立病院、綾部駅南口などを中心に8路線、1日3～12往復/路線を運行しています。平成17年4月1日に運行を開始し、平成24年度の年間乗車人数は約22万7千人でした。また、平成23年12月8日には、累計利用者数が150万人を達成しました。

京都交通は福知山線として綾部駅と福知山駅、福知山市民病院を連絡し、1日9往復を運行しています。また、福知山市営バスは川合大原線として辻(福知山市)と綾部駅、綾部市立病院を連絡し、1日6往復を運行しています。

表1-28 あやバスの利用状況

年度	年間乗車人数 (人)	1日平均乗車人数(人)		
		全日	平日	土日祝日
平成17年度	200,939	550	636	369
平成18年度	215,213	590	687	381
平成19年度	219,831	601	692	409
平成20年度	214,207	587	684	384
平成21年度	238,012	652	760	431
平成22年度	245,556	673	772	464
平成23年度	237,166	648	751	434
平成24年度	227,494	623	726	410

資料：市民協働課

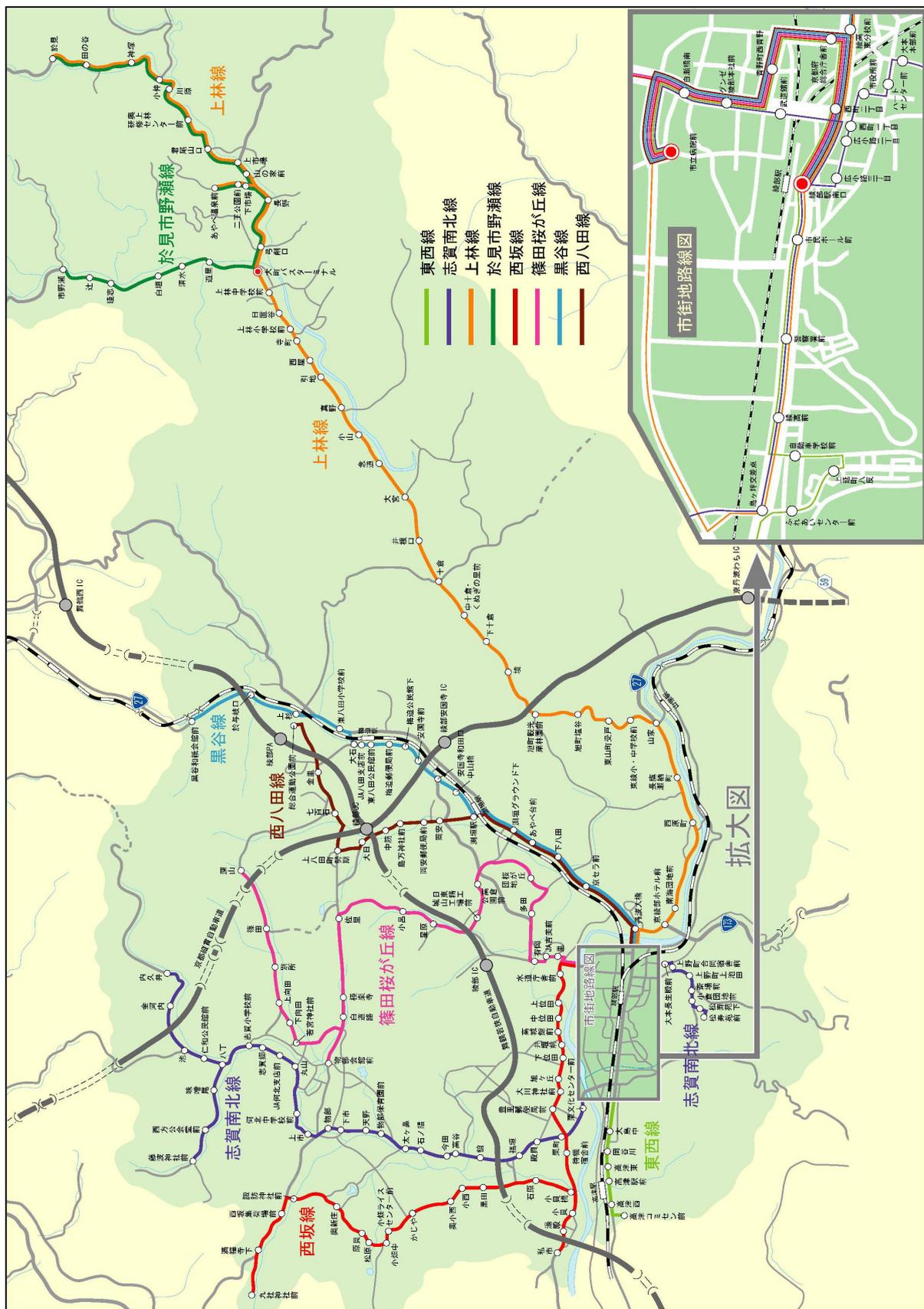


図 1-19 あやべ市民バス（あやバス）路線図